
～タイタニック～

重巡とね

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「タイタニック」

【Nコード】

N4805N

【作者名】

重巡とね

【あらすじ】

1912年、世界最大の客船タイタニック号が処女航海に出航した小さな密航者とともに・・・
(不定期連載です)

ある少年少女の物語（前書き）

私の始めての作品です。

暖かく見守ってください。

ある少年少女の物語

皆さん船魂て知ってますか？

船魂とは船に宿る精霊みたいなものでその姿は例外なしに若い女性の姿

だと言われている。

見える人は靈感があるもの、波長が合うもの、船をこよなく愛するもの、

など見える人は少数だとゆう。

1912年4月10日この日タイタニック号がイギリスサウサンプトン港

から出航した。

乗客乗員合わせて2000人以上が乗っている。

金持ちや赤ん坊を連れた人もいた。

だが誰もめったに入らない倉庫に息を潜めているものがいた。

この物語はある少年と少女のの奇妙な出会いから始まる物語である。

ある少年少女の物語（後書き）

ご意見ご感想お待ちしております

怪しい人影

1912年4月10日タイタニック号がサウサンプトン港から出航したが事件が起きた。

タイタニックが出航したとき、タイタニックの起こすスクリュウの水流で客船ニューヨーク号が

引き込まれそうになり衝突しそうになったが、船長エドワード・J・スミスの迅速な行動で

回避することはできた。

まさに間一髪だった。

4月11日その後タイタニック号はアイルランドのクイーンズタウンに寄航した。

貨物積み込み中・・・

??1「なあ、本当にやるのか？」

??2「当たり前だ！ここまで来て怖气ついたか？」

??1「そんなことない！」

??2「なら行くぞ」

??1「OK・・・」

今二人の怪しい人影が貨物層に潜入した。

それがある少女がみていた。

？？？面白そうなおきそうね・・・。

そう言うと彼女は、船内に消えて行った。

怪しい人影（後書き）

ご意見ご感想お待ちしております。

豪華客船で密航・・・そして出会い（前書き）

タイタニック更新です

豪華客船で密航・・・そして出会い

1912年4月11日正午タイタニック号はクイーンズランド港から出航した。

??「もう少しつめてくれよ」

??「無理言わないで、こっちも狭いのよ」

タイタニック号貨物層の中でなにやら小声がしていた。

??「しかしよくこの豪華客船に乗り込めたなフェイ」

??「ええ・・・ここに潜入するのは難しかったわねフォン」

この二人の名前はフォン・フィールとフェイ・フィール

二人はこのタイタニック号に密航している。

読者の皆さん気づいていると思うがこの二人は兄弟である。

フォンがお兄さんでフェイが妹である。

フェイ

へ今言うのもなんだけど・・・

フェイがいきなり切り出した。

フォン

へ何だよフェイ

フェイ

へうん・・・実はね・・・

フェイが話そうとしたとたん・・・

??「誰だ！そこにいるのは」！

貨物層に怒鳴り声はしる。

フェイ・フォン

（見つかった・・・）

二人は息を潜め身体を伏せた。

コツ、コツ、コツ、コツ

足音はフォン達にいる
木箱にちかずにいる。

フェイ

へちかずにきたよフォン・・・

フォン

へ落ちてけフェイいいか1・2・3で飛び出すぞ

フェイ

へうん・・・わかった

フォン・フェイ

「1・2・3、それ」！！

二人が飛び出したとたん・・・

??「きゃあああああ」

バタッ

フォン・フェイ

「「え・・・きゃあ」？」

二人は悲鳴のするほうを見てみると少女が一人倒れていた。

フォン・フェイ

「「この娘・・・誰」？」

次回へ

豪華客船で密航・・・そして出会い（後書き）

ご意見感想お待ちしております。

密航者と船魂（前書き）

更新です

フェイ、フォン「時風のほつから言われたからとび蹴りいい」「
！！！！！

プゲラッ！！！！

作者肋骨、骨折www

密航者と船魂

フェイ、フォン

「この娘・・・誰」？

前回フェイとフォンはこの豪華客船タイタニック号で密航中、ある少女が倒れていた（正確に言うと二人が逃げようとした時に驚いて倒れた）

フェイ

「ちょっとあなた大丈夫」？

フォン

「おいフェイ、起こしたら俺たちが密航者だって事がばれるぞ」

フェイ

「でも、ほおって置けないわ」

フォン

「・・・それもそうだな」

そう言うとフォンはバックからひもを出した。

フェイ

「・・・その縄何」？

フォン

「何って・・・この娘が暴れないように縛るんだよ」

するとフェイが少し後ろに下がって言った。

フェイ

「・・・亀みたいな縛り方しないでよ」

フォン

「するか！！！！てゆうかどこで覚えた」？

フェイ

「・・・秘密」

その後娘は縄でぐるぐる巻きにされた。

フォン

「で・・・この娘どうする」

フェイ

「勢いで縛っただけだね」

??

「う、うん」

フォン

「あ、起きた」

娘は目を開けて自分が置かれている状況を見た。

??

「・・・きゃああ、ふぐっ」

フォンがとつさに口を押さえた。

フォン

「シー、静かにしろ」

??

「ぷはっ・・・あ、あなた達は誰ですか、私をどうしようというんですか」

娘は涙目になりながらフェイに向かって言った。

フェイ

「私たちは簡単に言うとお密航者見られたからにはここで私たちと次の寄港地まで一緒にいてもらっわ」

いや普通自分から名乗るか？

フェイ

「うるさい作者」

話がずれた。

??

「み・・・密航者・・・」

娘は少しおびえていた。

それを察したのかフォンが話題を変えた。

フォン

「ところで君名前は」

??

「わ・・・私はこのタイタニックの船魂タイタニックです」

フォン・フェイ

「「船魂」」??

次回へ

密航者と船魂（後書き）

ご意見ご感想お待ちしております。

船魂のタイタニック

フォン・フェイ

「「船魂」？」

前回

フェイ・フォンは船魂と名乗る少女とであつた

タイタニック

「はい・・・船魂です」

フェイ

「・・・そんなの信じられるわけないでしょ」！

フォン

「確かにになにか証拠を見せてもらわないとな」！

二人は信じられないみたいな顔をして言った

タイタニック

「証拠ですか……痛いかもしれないですけどいいですか」？

フェイ

「ええこのフォンが実験台になるからいいわよ」

フォン

「そうそうこの俺が実験台になる……ってなんでだよ」！

フェイ

「だって痛いのにやなんだもんそれとも何？妹を実験台にしようっての」？

フォン

「分かった分かった俺が実験台やってやるよ（こいつめ・・・女である事を楯にしゃがって）」

フォンは渋々実験台にされた

タイタニック

「じゃ、じゃあやりますよ・・・」

そう言っでタイタニックはフォンがいる場所の上を見た
すると・・・

ドスッ！ドスッ！ドスッ！ドスッ！ドスッ！ドスッ！

何かが刺さるような音がした

フォン

「ん？何の音だ・・・」？

フェイ

「・・・フォ、フォン・・・う、後ろ・・・」

フェイが冷や汗をかきながらフォンの後ろを指差した

フォン

「へっ？後ろって・・・」

フォンが後ろを向くと目の前に棒があった
だがこの棒をよく見ると棒に何かがへばりついていて
よく見ると黒い物体が動き回っていた
その正体はゴキブリであった

フォン

「あれ？・・・俺ほったらかし」！？

本当に次回へ

船魂のタイタニック（後書き）

ご意見ご感想お待ちしております

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4805n/>

～タイタニック～

2011年10月7日22時30分発行